

つるぎ町立貞光中学校で体験学習を実施しました。

<大気環境担当>

保健製薬環境センターでは、一般環境の大気の状態を県内各地の観測局舎で測定しておりますが、よりきめこまかい地点の測定を行うために移動測定車での測定を行っています。今年の7月から9月には移動測定車をつるぎ町立貞光中学校に設置しています。

そこで大気の測定状況を見ることができるこの機会を利用し、つるぎ町立貞光中学校の1年生48名を対象に、7月10日に徳島県（環境管理課）主催『とくしまの「あおぞら発見」学習事業』を開催し、体験学習を取り入れた授業を行いました。

授業内容

1. 環境大気移動測定車の見学
2. 酸性雨について
3. 自動車の排気ガスについて



「水溶液のpHの測定」



「移動測定車の説明の様子」



「自動車排ガスの測定」

体験学習では、環境大気移動測定車の測定している項目についての講義のあと、車の中の測定機器の見学を行いました。酸性雨についての授業では、酸性雨の原因について説明するとともに、水溶液のpHを、フェノールフタレイン溶液、BTB溶液、pH試験紙を使用して測定しました。自動車の排気ガスについては、自動車排気ガスから窒素酸化物、硫酸酸化物、ベンゼンなどの揮発性有機化合物が大気汚染物質として排出されていることを学習し、実際にビニール袋に採取した自動車排気ガスを検知管を取り付けた気体採取器で吸引し、気体検知管の色の变化で濃度を調べました。

これらの大気汚染物質の濃度が高くなると、光化学スモッグや酸性雨、地球温暖化の原因となることから、環境にやさしい乗り物や節電について考えてもらいました。これからの日常生活にいかしてもらいたいと考えています。